

講義名	日本語C（書く）【留学生科目】			授業形態	
担当教員	福岡 寿美子	開講期・曜日・時間	前期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

留学生がアカデミック・ライティングについて学ぶ。
 留学生がピア・ラーニング(Peer Learning)を行うことによって、相互リソース化(自分も相手もお互いに貢献できる互恵的存在である)、批判的思考の獲得(対話から「問い」が生まれるプロセスを重視する)、社会的関係の構築(背景の異なる多様な「他者」と向きあい、認めあう態度を身につける)ができる。

到達目標

留学生が「大学での学び」のための日本語のライティングとコミュニケーションができるようになることを到達目標とする。
 留学生がピア・レスポンスを行うことによって、より良い文章が作成できるようになることを到達目標とする。
 留学生がアカデミック・ライティングを通して、考える学習を行うようになることを到達目標とする。
 到達目標については、課題の提出、中間試験、期末試験等において、その到達度を測る。

提出課題

ワークシート、課題作文、ルーブリック等、授業中にその都度指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各学生が提出した課題（ワークシート、作文、ルーブリック等）について、一人一人にチェックおよびコメントを行い、次の授業において、各々に返却をし、全体としての講評・解説等も行い、フィードバックをする。

評価の基準

期末試験（30％）、中間試験（10％）、課題の提出（30％）、授業参加度（30％）等による総合評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

出欠は毎回とる。
 全授業回数の1/3以上欠席した場合は、試験を受けることができない。
 連続3回で1回欠席とする。
 ピア・レスポンスを行う。
 真面目かつ積極的な授業参加を望む。

教科書

.使用しない。

参考図書

.改訂版大学・大学院留学生の日本語 作文編。 アカデミック・ジャパニーズ研究会 アルク 1,600 9784757426320

その他

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション・プレゼンテーションとライティング』大島淳生、大場理恵子、岩田夏穂、池田玲子著 ひつじ書房
 『大学で学ぶための日本語ライティング 短文からレポート作成まで』佐々木瑞枝、藤井和代、橋尾書代子著 ジャパンタイムス
 『改訂版留学生のための論理的な文章の書き方』二通信子、佐藤不二子著 スリーエーネットワーク

授業計画

1. イントロダクション：授業の進め方および注意事項、スケジュール、教材、評価方法、自己紹介作文、他
2. 作文学習のためのアンケート、ピア活動の意義について、他
3. テーマ1について、他
4. テーマ1についてディスカッション、他
5. 文章作成、他
6. ピア・レスポンス、他
7. 文章作成、他
8. 中間理解度試験の実施およびその解説、他
9. テーマ2について、他
10. テーマ2についてディスカッション、他
11. 文章作成、他
12. ピア・レスポンス、他
13. 文章作成、他
14. ルーブリック作成、フィードバック、他
15. 総復習および期末試験について、課題提出、他

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○ウ：ディスカッション、ディベート	○エ：グループワーク
○オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各プリントに関して、語句の読みや意味を調べ、内容確認等の予習を、毎回2時間行ってください。
 ピア・レスポンスに関する復習および課題を、毎回2時間行ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

必要な日本語作文能力を身につけ、活用することができる。
 ピア・ラーニング、ピア・レスポンスを通して、仲間と協働して、物事を成し遂げることができ、他者との意見の違いや立場・考え方の違いを理解し、協力して物事を進めることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考